

稻沢市12月議会の一般質問

稻沢市民病院の経営改善 服部市議

4月から「ナースカー」

稲沢市12月議会において、田本共産党の服部俊夫市議は12日、稲沢市民病院の経営改善、コミュニティバスの充実について質問し、市民病院は地域医療を果たしていること、独立行政法人化や民営化に反対しました。また、コミュニバスの無料制度をより拡充するよう求めました。

入院患者・救急は増加

稲沢市民病院は、今年4月以降患者数は増加しています。10月までで入院患者では36741人（前年比3141人増）、外来患者数は73795人（同85人減）となつており、稼働病床232をフル稼働しています。

また、「断らない救急」を基本とし、救急患者を積極的に受け入れています。前年度3千件を超えましたが、今年度は、これを大きく上回る3500件に達する見込みです。このほか、「転倒骨折セントラル」や訪問看護の「あしたば」、高齢者施設に看護師を派遣する「ナースカー」の取り組みなど地域連携医療の拠点としての役割も果たしています。



市は「経営困難」を強調
あり方検討委を設置

城西大学の伊関友伸教授は
稻沢市民病院に何度も訪れ、
「日本一の市民病院」になる
可能性があると述べています。
経営改善だけにとらわれるこ
となく、地域で果たす役割を
再確認し、市民病院のありか
たを真剣に検討すべきです。
市当局や市長は、「市民病
院の経営が極めて厳しい今、

た看護も行います。自宅で最期を看取つた方は、開設以来199件となっています。

4月から「ナースカ！」

老人施設に駆け付ける

「ナースカ！」は、今年4月から始まつた取り組みで、高齢者施設の利用者の体調が悪化した場合に、施設からの電話相談を受け、症状・状態が不安定で迅速に搬送が必要なときは、救急外来での受け

獨法化・民間譲渡に反対

日本共産党は、地域医療を

診療報酬の引上げを

2023年に策定した「経営強化プラン」とその「点検・評価報告書」では、経営形態

コミュニバス4月から大里

コミュニバス4月から大里駅にも

免許返納の無料券、家族の利用も求める
服部市議は、コミュニティ 送りました。



した。来年4月から下津大里線が名鉄大里駅まで路線が延長されます。この間の停留所は、「日下部郵便局」「大里駅」「田畠」「宮長」「緑町」の計5か所を設置するとしています。しかし、路線延長によつて便数は減らされます。

9月議会で検討するとしたバスロケーションシステム（運行状況の案内）は、財政状況を理由に次年度導入を見

て質問し、中学生の夏休みの無料乗車券、高齢者の無料バスなど要求しました。運転免許証の自主返納した方へ無料乗車券（65歳以上、本人のみ24枚）を支援していますが、例えば妻の通院を送迎している場合、家族も利用できるようすべきだと求めました。稻沢市は他市の状況見ながら検討するとしました。

市財政への影響を最小限に抑えながら、将来にわたって持続可能な病院運営を確立することを目的として、（仮称）あり方検討委員会で、公設公営で良いのか、経営形態の見直しを含めて議論しています。「」としています。この委員会には市民病院の医師・看護師は入れないが、声は聞いていくと述べています。

独法化・民間譲渡に反対

診療報酬の引上げを

2023年に策定した「経営強化プラン」とその「点検・評価報告書」では、経営形態

日本共産党は、地域医療を支える稻沢市民病院を守るために全力をあげます。また、診療報酬の引き上げなど国に求めています。

ミニバス4月から大里駅にも

免許返納の無料券、家族の利用も求める

服部市議は、ミニティバスの充実について質問しました。来年4月から下津大里線が名鉄大里駅まで路線が延長されます。この間の停留所は、「日下部郵便局」「大里駅」「田畠」「宮長」「緑町」の計5か所を設置するとしています。しかし、路線延長によつて便数は減らされます。

9月議会で検討するとしたバスクルケーションシステム（運行状況の案内）は、財政状況を理由に次年度導入を見

